

## 西海ゼミ30周年おめでとうございます。

1981年度卒業の後藤洋一です。名簿を見てもわかりますが、西海ゼミではかなりの古株となりました。早いもので西海ゼミを卒業してから、27年の歳月が流れたことになります。

西海ゼミの同期のメンバーは、岡野聡、斉藤篤、長谷川衛、そして私の少数精鋭の4人です。西海ゼミの実験室で恒温槽の水銀柱をうっかり破壊して水銀を床にばらまいてしまい、銅板を片手に水銀を集めまくったのがこの間のことのように思い出されます。また、卒論作成の息抜きと称して「酒は百薬の長」を合言葉に駅前の「スタミナの城」によく繰り出したものでした。このようなときは岡野君のアパートに宿泊ということになるのですが、学校を出る前に研究室棟の温水シャワーを浴びてから飲みに行くという準備の良さに先生もあきれていたのではないのでしょうか。

学生時代、オーディオが好きで、オーディオテクニカという会社の製品に興味を持ち、趣味が高じたわけでしょうか、そのオーディオテクニカという会社に就職することになりました。「趣味と仕事は別なほうがいいんじゃないの？」と先生には言われましたが・・・(西海先生は趣味を楽しむかのように研究されていたように見えました)。

オーディオテクニカに入社した当時は、文字通りオーディオ関係の仕事で、今はあまり見なくなりましたが、LPレコードを吸着するスタビライザーやスピーカーなどを担当しました。私個人的には、まさに趣味と実益を兼ねた仕事だと思いました。

しかし現在は特機部という部署で「すしロボット」を作っています。そのせいか、単に寿司が好きただけか、回転寿司やテイクアウトの寿司をよく食べます(残念ながら高級な寿司は経済的なこともあり、めったに食べられません)。会社での宴会ではすしロボットで寿司をつくって食べることになります。ここでも、なんとなく趣味と実益を感じます。

西海先生は来年4月で65歳になられるとのことですが、私ももう50歳になります。卒業後、歳月を経るほどに母校への懐かしさが増してくるような気がします。そのような折、西海ゼミ30周年

記念式典の案内をいただき、本当にうれしく感じた次第です。さっそく同期のメンバーに連絡を取り、これを機会とばかりに、学生時代に戻った気分で、ひとしきり電話での会話が弾みました。

同期の仲間との会話により、一瞬のうちに過去へと時代をさかのぼり、「あの頃はよかった。あの頃は若かった。」と学生時代を懐かしむことで、なんともいえない感慨にひたることができます。また、同じ仲間と語り合うことで、現在の仕事ぶりや生活をあらためて認識することにより、お互いに刺激し合い、これからの未来へ向けての活力にしていけることもできます。

西海ゼミ30周年記念式典に集う私たちは、初対面の方もいるかとは思いますが、年齢を超えて新たな親交を結ぶことができます。西海ゼミ30周年のこの式典に集まったという縁を基に、お互いに語り合い、感化し合い、未来に発展させることができるのではないかと思います。そして西海ゼミ30周年記念式典が、私たちにとって新たな未来へのスタートになるのではないのでしょうか。

西海先生をはじめ、この西海ゼミ30周年記念式典実行委員の皆様感謝いたします。

本日は西海ゼミ30周年おめでとうございます。